

別記様式（第4条関係）

会議録

会議の名称	第5回加東市都市計画マスタープラン策定委員会
開催日時	平成30年12月17日（月） 午前10時00分から午前11時30分まで
開催場所	加東市役所3階 302号会議室
委員長の氏名 中山久憲 出席及び欠席委員の氏名 出席：中山久憲、宮崎良平、神戸 仁、廣畑貞一、萬谷信弘、白井伸幸 欠席：高木厚子、山本正仁、藤原博幸	
説明のため出席した者の職氏名 —	
出席した事務局職員の氏名及びその職名 <事務局> 技監 岸本至泰、都市整備部長 藤井康平 都市整備部都市政策課：課長 長谷田克彦、副課長 藤原敬子、主査 藤井康孝、 主査 丸山聡司、主事 伊藤充紀 <加東市都市計画マスタープラン等改定支援業務 委託業者> 株式会社エイト日本技術開発：高木悠里、竹添敏仁	

【報告事項】

- (1) これまでの検討経緯
- (2) 都市計画マスタープランの将来像・基本方針・将来都市構造について
- (3) 都市計画マスタープラン素案について

【会議の経過】

1 開会

2 あいさつ

3 委員紹介

4 報告事項

＜前回委員会での意見及び各委員ヒアリングを踏まえた都市計画マスタープラン（素案）の修正箇所について＞

（説明）

事務局から、前回委員会での意見及び各委員ヒアリングを踏まえた都市計画マスタープラン（素案）の修正箇所について、説明を行った。

（質疑応答）

委員長：資料1のN○16、土地利用方針図等においては兵庫教育大学を記載しないとのことであるが、兵庫教育大学は国立大学であり、全国レベルの大学である。これが加東市にあるということ自体が大きな話である。これについては、もう少し工夫してほしい。

事務局：地域別構想には記載する。全体構想の図では、煩雑になるため記載しないことと考えている。

委員長：社地域だけの話ではない。兵庫教育大学は、加東市全体の売りではないか。

事務局：記載を検討したい。

委員：これはお願いであるが、資料1のN○20、地域別構想には市全体の課題は記載していないとのことであるが、市全体に関する課題と、地域の課題のすり合わせが必要ではないか。そのあたりが地域別構想図にうまく表現されると良い。

委員：4点、意見がある。いずれも実現化方策の中で記載できると思う。1点目、Bio周辺に誘導する都市機能について、具体的な機能までは特定していないとのことであるが、どのような機能を求めるのか、方向性は示しておくべきではないか。2点目、外国人を受け入れることについて、具体的には何を行うのか。3点目、自転車を推進することについて、どこの地域から、どこの地域までの利用が多いのか、それを踏まえてどこをつなぐのか。また、観光に関する自転車利用との整合はどのように図るのか。4点目、兵庫教育大学は本当に大きい強みである。兵庫教育大学とまちづくりの連携を具体的にどのように進めるのか、実現化方策に記載してはどうか。

事務局：中心の都市機能について、都市機能の誘導に関する具体的な計画は無いが、その中でバスターミナルの整備や地区計画の導入、市街化区域への編入といったところを検討している。人が集まるための商業施設や公共的な施設を誘致したいと考えている。

委員：具体的な記載が難しければ、実現化方策のところをもう少し充実してはどうか、

という意見である。

事務局：承知した。

委員長：やしろショッピングパーク Bio は市街化調整区域にあるのか。

事務局：Bio は市街化区域にあるが、南側が市街化調整区域である。バスターミナルは、Bio 南側で検討を進めている。この Bio 南側を含めた市街化調整区域について、市街化区域への編入を検討している。

委員長：Bio をそのような位置付けにしているのであれば、Bio 周辺を将来的に商業的な用途地域にするなど、将来の姿を明示しておくべきではないか。

委員長：資料 1 の No 15、パーク＆ライドとは、一般的には鉄道を指す。パーク＆バスライドも普通に使う言葉である。パーク＆バスライドで良いのではないか。

委員：Bio 周辺の開発であるが、本当にその場所を開発する気があるのか。本気であれば、もっと色々な手段を使っていくべきではないか。

開発が難しいのであれば、開発が進んでいる IC 周辺など、可能なところに場所を変えるべきではないか。

ある県では、市街化区域を廃止したと聞く。そういった努力をしていかないと、突破口は開けない。確かに Bio 周辺は様々な施設があるが、市街化調整区域のため開発が難しいのであれば、そこで止まってしまう。市として、10 年、20 年後どのような青写真を描いているのか。

委員：滝野に住んでいるが、IC 周辺の方が商業地域らしい。現時点での Bio 周辺をどうするのか、という議論は非常に難しいと思う。また、国道 175 号バイパスは高架のため、沿道が開発しにくい。

委員：IC 周辺は開発が進んでいる。現在、市ではホテル誘致を検討していると思う。IC 周辺にホテルを誘致してはどうか。Bio 周辺が農用地で開発できないのであれば、開発しやすいところに変えれば良い。具体的にどの場所を開発したいのか、市の将来イメージがあれば、もう少し意見も言いやすい。

委員長：具体的に描くと、民間の土地もあると思うので、色々な問題がでてくる。大きな方向性を示しておけば良いと思う。あまりに個別計画ばかりになっているので、ある程度全体像を示しておいたほうが良い。

委員：Bio では、イオンが 10 年後も撤退せずそのまま立地し続けているのか。イオンが撤退した際に、いろいろな機能を集積していても、空洞化してしまうのではないか。

事務局：Bio は建設から約 20 年が経過している。全国的にみても、イオン系列の店舗は 20 年経てば撤退する、という例もあると聞く。西脇市でも、総合スーパーがなくなった。現在、近隣の総合スーパーは、小野市のイオンか加東市の Bio かという状況である。

Bio は、イオンだけで構成されているわけでは無い。社町のときに、商工会や商店街から「車社会になって商店街が衰退していく」という危機感があって、社町の商業を再生するため、第 3 セクターで Bio を整備した。躯体は老朽化しているが、20 年の歴史、また、当時の方々の思いがあるので、Bio は無視できない。

この辺りでは、Bio にしか売っていない商品も多い。Bio がなくなると、市としても大きなダメージである。

民間企業に公費を投入するには難しい面もある。また、国道 372 号が開通したことにより、車の流れも変わり、交通量がそちらに流れた。車の流れを国道 175 号側に持ってきて、Bio 周辺を中心市街地として商業や交流できる機能を誘導し、都市再生につなげていきたい。

委員：現在の社会情勢の中、イオンが Bio でやっていくだけの体力があるのか。明石では、総合スーパーが撤退している例もある。人件費を削減し、縮退していくかもしれない。Bio を前提に捉えるのではなく、もう少し未来志向で、他の軸をベースに捉えても良いのではないか。

- 委員：この計画書からは人間的な匂いがしない。人の行き来や活性化につながるキーワードは何か。教育や学びに関するキーワードが落とし込まれると良いのではないか。
- 委員長：Bioの話は、行政ではなく事業者が決めることであるので、難しい面がある。都市計画マスタープランは空間計画なので、中心核をどこにするのか、そのための規制はどうするのか、といったところが重要である。10年後はイメージであり、そこから具体的に書ける内容を都市計画マスタープランに記載すると良い。
- 委員：事業者が何かしようとする、農振農用地など、すぐに規制がかかってくる。その規制を市の方でコントロールすることはできないのか。
- 委員：大前提として、食料自給率を高めるために農地の維持が必要であり、農振法がある。極論を言うと、市が農用地等の線を決めるので、このようなマスタープランと整合しながら線を引くと良い。ただし、県の同意が必要である。
- 委員：市がどちらの方向にまちづくりを進めるのか、ということが決まっているという前提で、総量として農地が確保されていれば良いという考え方もある。ただし、まちづくりの方向性がしっかり決まっていけないといけない。
- 委員：要望があれば何でも広げて良いというわけではない。人口が減少する中で、どこでも広げて良いのかという話もある。そのあたりのバランスが必要である。
- 委員：農業で生活できる人は少ない。専業農家は、今後10年で半数になるといわれている。農業で生活できるのであれば、農地を守る方向で良いと思うが、このような状況で、農業を産業と捉えることができるのか。商業を中心に考えていかなければならない。農業も大事であるが、開発したいところを開発しやすいようにしていかないと、状況は悪化するのではないか。
- 委員：地域として、加東市としてどのようなまちづくりを目指すのか、という話である。国道175号と国道372号の交差点の活性化に本気で取り組むのであれば、農振解除について検討することもあり得る。しかし、交差点にコンビニ立地、というレベルでは難しい。
- 委員：なぜ今そのような話をするのか。県としてのアドバイスがあるなら、もっと早く言ってほしかった。
- 委員長：都市マスの上位計画として、総合計画がある。農業と都市の関係は、総合計画の中で議論しておくことである。都市計画マスタープランだけでは、農業をどうするのか、記載することは難しい。
- 委員：昔は人口増加であったが、現在は人口減少である。そのタイミングでマスタープランを検討しており、難しいところはあるが、方針を立てられれば良い。マスタープランは実施計画ではない。課題があってよい。課題をどうするのか、方針を立てられれば良い。
- 委員：あとは表現が大事であるので、将来を見通せるような表現があると良い。
- 委員：将来的に農業人口が減る中で、外国人労働者にも携わってもらいたいと記載されている。どうやって外国人を受け入れていくのか。
- 委員長：それは、個人の農業者が外国人を受け入れるのかどうか、という話になる。
- 委員：外国人を受け入れるため、加東市として何ができるのか。
- 委員長：既に記載されている。都市計画マスタープランでは、受け入れるという方向性を書く程度しかできない。
- 委員：観光振興に関する計画はないのか。
- 事務局：P1-4、「自然が豊かで潤いのあるまちづくり」の中で方向性を示している。
- 委員：観光協会の方で挙げている、山田錦・ゴルフ・サイクリングといった観光資源との連携は。
- 事務局：ネットワークの構築は計画の中で記載している。サイクリングロードについては、今後道路ネットワーク構想の中でも検討すると聞いている。

事務局：将来都市像（まちづくりのテーマ）について、意見をうかがいたい。

委員：案2はなぜ「WA」なのか。また総合計画では「しあわせ実感都市」とあるが、案2では「幸福実感都市」となっている。総合計画と合わせるべきではないのか。総合計画では「山」、「技」、「文化」というキーワードが入っている。総合計画に合わせるのであれば、「山」＝「自然」や「みどり」とすると、「技」は何か。案1の「しごと」が該当するのかもしれない。「まち」、「みどり」に加えて、技に関連するものがあると良いかもしれない。また案3では「みんなでつくる」とあるが、総合計画では「みんなが主役」とあるので、関連している。
案1、2、3をミックスしたような形でまとめられないか。

委員長：「WA」というのは、どちらかというと平仮名で「わ」の方が良いかと思う。「幸福実感都市」は、固有名詞に感じる。また「かとう」よりも「加東」の方が良いのではないか。

案3は都市計画と関係なく、どこでも使える気がする。

委員：兵庫教育大学が設置されたとき、社町では「学園都市」として売り出された。人をどう育てていくか、という視点が入ると良いと思う。

委員：案3の「ちょうどいいまち」は、気持ちは分かるが、「住みやすいまち」等の方が良いのでは。

委員長：委員長一任として、事務局と委員長で検討させてほしい。

委員長：今日の話は、前回の修正が主であった。今日あった意見を含めて検討してほしい。これで完成ではなく、今後、パブリックコメントや庁内での調整等がある。その中で皆様の思いが入った計画書になれば良いと思う。

5 閉会

【資料名】

資料1：前回委員会での意見及び各委員ヒアリングを踏まえた都市計画マスタープラン（素案）の修正箇所

資料2：都市計画マスタープラン（素案）

参考資料1：地域別構想の地域区分について

参考資料2：まちづくりワークショップ結果概要

参考資料3：将来都市像（まちづくりのテーマ）について

平成31年 / 月 30日

委員長

中山 久 寛

副委員長

高木 厚子